

米子警察署蚊屋駐在所下水道接続工事

図面リスト		
図番	図面名称	縮尺
M - 00	表紙・図面リスト	NS
M - 01	機械設備工事 特記仕様書(1)	NS
M - 02	機械設備工事 特記仕様書(2)	NS
M - 03	付近見取図・屋外配置図(既設)	1/100
M - 04	排水設備 屋外平面図(改修後)・参考図	1/50



一級建築士事務所／建築設備設計事務所 Mechanical & Electrical Engineers	X.PLAN	一級建築士事務所 烏取県知事登録 第 03-1014 号 管理建築士 谷川和也 一級建築士登録 第 366130 号 建築設備士 田村志郎 建築設備士登録 第 28F2-7001NT 号	承認	管理技術者	担当	作図	縮尺 NS	工事名称 米子警察署蚊屋駐在所下水道接続工事	図面番号 M-00 / 04
			(田村)	(谷川)	(板倉)	(板倉)			

機械設備工事特記仕様書

I. 工事概要

1 工事場所 米子市蚊屋

2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積(m²)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	駐在所併用住宅	W	1	108.70	(16) 項 口	
2				() 項		
3				() 項		
4				() 項		
5				() 項		

3 工事種目 (◎印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 空気調和設備								
● 冷暖房設備								
● 換気設備								
● 排煙設備								
● 自動制御設備								
● 衛生器具設備								
● 給水設備								
◎ 排水設備					○			
● 給湯設備								
● ガス設備								
● 净化槽設備								
● 消火設備								
● さく井設備								
● 電気設備工事								
● 建築工事								

4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

◎印の付いたものを適用する。

項目		設備概要				
● 空気調和設備		● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式				
● 冷暖房設備		● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式				
● 暖房設備		● 温水暖房 ● 蒸気暖房 ● 温風暖房 (● 局所式 ● 中央式) ● 床暖房				
● 熱源		● 電気 ● 灯油 ● A重油 ● ガス ● バイオマス				
● 主要熱源機器		● 鋼製ボイラー ● 鉄製ボイラー ● 真空式温水発生機 ● 無圧式温水発生器 ● チリングユニット ● スクリュー冷凍機 ● 遠心冷凍機 ● 吸収式冷凍機 ● 直だき吸式冷温水機 ● バイオマスボイラ ● ヒートポンプパッケージエアコン (マルチタイプ ● 有 ● 無) ● 温風暖房機 ● F.F.暖房機 ● その他 ()				
換気設備		● 第一種 ● 第二種 ● 第三種				
排煙設備		● 機械排煙 (適用法規 ● 建基法 ● 消防法)				
自動制御設備		● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式				
衛生設備	給水設備	給水方式	● 水道直結方式 ● 高層水槽方式 ● ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式			
		水源	● 水道水 ● 井戸水			
	排水設備	排水方式	● 自然流下 ● ポンプ排水 (● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水)			
		放流先	汚水	● 公共下水道	● 浄化槽	
			雑排水	● 公共下水道	● 浄化槽	
			雨水	● 公共下水道	● 側溝	● 河川
		処理方式	● 小規模合併	● 合併		
			処理水放流先	● 排水路	● 側溝	● 河川
	給湯設備	● 局所式 (● ガス ● 油 ● 電気) ● 中央式 (● 油 ● ガス ● 電気)				
	消火設備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連絡送水管 ● 連絡散水				
		● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置				
		● 不活性ガス消火 (● 窒素 ● 窒素系 ●) ● ハロゲン化物消火				
	ガス設備	● 都市ガス (MJ/Nm³) ● 液化石油ガス				

II. 特記仕様

1 一般事項

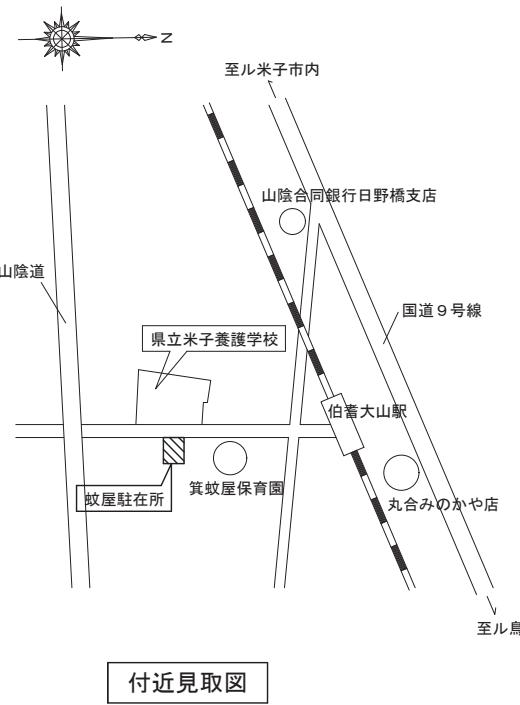
- (1) 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、◎印の付いたものによる。
- ◎公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）（以下「標準仕様書」という。）
- ◎公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
- ◎公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和4年版）（以下「標準図」という。）
- (2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針（令和4年版）」（以下「監理指針」という。）を適用する。
- (3) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

2 特記事項

- (1) 項目は番号に ○印の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項のうち選択する事項は ◎印の付いたものを適用する。
- ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ◎印と ※印の付いた場合は両方を適用する。
- (3) 一般共通事項のうち () 項は、● 建築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

一般共通事項	(13) 完成図等	
	区分	名 称 部 数
	※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ◎ CADデータ ◎ PDFデータ 1部
	施工図	施工図 ● 原紙 ◎ CADデータ ◎ PDFデータ
	※ 完成図 2つ折り本	※ 完成図 (縮小版) ◎ 完成図 (縮小版)
	※ 完成図書	※ A4版市販ファイル ◎ 主要機器図 ◎ 試験成績書
	※ 保守用説明書	※ 保守に関する指導案内書
	(A4版ファイル)	※ 機器取扱説明書
	※ 保証書	※ 主要機器一覧表
	※ 官公署の届出書類	1部
◎ 原因ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。		
14 他工事との取扱い		
他工事との取り合い		
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入 ● ● ●	
	補強 ● ● ●	
● 鉄骨の開口及び補強	※ ● ●	
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くぎ処理)	● ● ●	
● 軽量鉄骨壁のボックス取付け用下地	● ● ●	
● 埋込み電盤・端子盤・ブルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠 ● ● ●	
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強	補強 ● ● ●	
● 埋込形機器取付け用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切り込み ● ● ●	
● 自動閉鎖装置を取付けける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ	補強 ● ● ●	
● 電気室、自家発電室などの基礎及びピット (蓋を含む)	※ ● ●	
● 天井点検口	※ ● ●	
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 ● ● ●	
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線	屋上設置 ● ● ●	
● 機器用コントロールスイッチ (空調機・給湯器等) の取付け及び配線	● ● ●	
15 工事用水・電力・その他		
16 表示板		
※ 工事表示板		
● お願い表示板		
17 足場		
900 1,200		
● 建築工事中		
地色白		
● 御通行中の皆様へ		
地色白		
● 令和〇〇年〇〇月工事完成予定		
地色白		
● お願い表示板		
● お手入れ要請		
1,200 900		
● 建築工事中		
地色白		
● 御通行中の皆様へ		
地色白		
● 令和〇〇年〇〇月工事完成予定		
地色白		
● お願い表示板		
● お手入れ要請		
● 事業の目的		
● 施設名 ○○○○○新築工事		
● 構造、規模、鉄筋、コンクリート造、鉛造、延べ面積○○○○m²		
● 施工期間 令和〇〇年〇〇月から〇〇年〇〇月まで		
● 施工者 ○○○○○設計		
● 進捗先進度 ○○○○○		
● 施工責任者 ○○○○○		
● 現場責任者 ○○○○○		
● 施工者登録番号 ○○○○○		
● 施工者登録名 ○○○○○		
● 施工者登録会員登録番号 ○○○○○		
● 施工者登録会		

一般 共 通 事 項	21 鋼管類の防食処置	地中埋設 ● ベトロラタム系 ● ブチルゴム系 ● 熱収縮チューブ及びシート ● 標準図(施工3) ● (1)絶縁フランジ ● (2)絶縁シート ● (3)絶縁スリーブ ● (4)絶縁ユニオン ※ 合成ゴム製(球形) ● ポリテトラフルオロエチレン製 ● ベローズ形(ステンレス製) ※ ベローズ形 ● スリーブ形 各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。(さび止め塗装は除く。)	1 設計用温湿度条件	1 空氣調和設備	2 冷暖房設備	3 換気設備	4 ダクト	5 吹出口・吸込口	6 水槽のマンホール	7 排水設備	8 給湯設備	9 消火設備	10 ガス設備	11 自動制御設備	12 処理槽設備
	22 絶縁継手	(7)埋設されるもの(ただし、防食塗装部分を除く) (イ)亜鉛めっき以外のめっき仕上げ面 (ウ)亜鉛めっきされたもので、常時隠べられる部分 (工)亜鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類 (オ)樹脂コーティング等を施したもので、常時隠べられる部分 (カ)カラーアクセサリ板面 (キ)アルミニウム、ステンレス、鋼、溶接アルミニウム・亜鉛板面、合成樹脂等、特に塗装の必要を認められない面 (ク)特殊な意匠の表面仕上げ処理を施した面 (ケ)主に各階機械室内等及び電気室の亜鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管 ● 上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所 () 呼び径600mm以下の継手は、SAS322を満足するものとする。	外気条件 室内(調整目標値) 温度 温度 湿度 湿度 湿度 湿度 (DB) (RH) (DB) (RH) (DB) (RH) 夏季 ℃ % 28.0 ℃ % ℃ % 冬季 ℃ % 19.0 ℃ % ℃ %	6 衛生器具設備	1 衛生器具の参考型番 2 小便器用節水装置 3 自動水栓 4 大便器洗浄弁 5 温水洗浄便座 6 器具と排水管接続	7 給水設備	1 量水器 2 配管材料	8 水槽のマンホール	9 排水設備	10 給湯設備	11 消火設備	12 ガス設備	13 自動制御設備	14 処理槽設備	
	23 防振継手	※ ベローズ形	※ SGP(白) ● SGP-VA ● SGP-PA ※ SGP(白) ● SGP-HVA ● ステンレス鋼管(SUS304) ● 桁橋ポリエチレン管(ファンコイル機器接続部に限る) ● ポリブレン管(ファンコイル機器接続部に限る) ※ SGP(白) ● ステンレス鋼管(SUS304) ※ SGP(黒) ※ STPG370-Sch40(黒) ● ステンレス鋼管(SUS304) 一般配管 ※ SGP(黒) 地中配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管 ※ 断熱材被覆鋼管 ● ステンレス鋼管 ● SGP-VA ● ※ SGP(白) ● VP ※ 5K ● 1OK ※ 流量調整弁 ● 定流量弁 (● ダイヤフラム式流量可変式 ● カートリッジオリフィス形) を取付ける。 (ア)防煙ダクト ※ 遠隔復帰式 ● 電気式 (動作用電圧、電流はDC24V、0.7A以下とする。) (イ)ビストンダンパー ※ 遠隔復帰式 ● ※ 低圧ダクト ● 高圧1ダクト ● 高圧2ダクト ● 長方形ダクト ● コーナーボルト工法 (● 共板工法 ● スライドオンフランジ工法) (長辺1500mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。) ● アングルフランジ工法 ● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板とする。 ボックス ※ 亜鉛板製 ● ガラスワール製 シーリングディフューザーの接続は、標準図(施工4.9)を参考とする。 接続するダクトの施工が困難な場合はフレキシブルダクトを使用してもよい。 線状吹出口には、(長さ+100) × 300 × 300Hの接続チャンバーを設ける。 外壁に面するガラリにチャンバー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。 吹出口接続チャンバー及び図示したダクト並びにチャンバー類に内貼する。 内貼リチャンバー類の寸法は、外法寸法とする。 吹出口接続チャンバー以外の内貼りしたチャンバーには点検口(原則400×600)を取付ける。 形式はビトーパイプ(コック付)とする。 ● 着脱式 ● 固定式 下記の箇所、若しくは図示により取付ける。 ● 冷凍機類の冷水出口 ● 瞬間流量計 ● 测定用タッピング ● 冷凍機類の冷却水出口 ● 瞬間流量計 ● 测定用タッピング ● ポリマー又は熱交換器の温水出口 ● 瞬間流量計 ● 测定用タッピング ● 冷温水ヘッダーの各送り管 ● 瞬間流量計 ● 测定用タッピング ● ユニット形空気調和機の冷温水入口 ● 瞬間流量計 ● 测定用タッピング ● メカニカル形 ● 風速センサー形 機器付属以外の温度計 ※ 工業用バイメタル式 ● ガード付形温度計 空気漏りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。 ※ 手動 ● 自動 自動空気抜き弁装置は標準図による。(施工3.8(g)) 機械室の手動式空気抜き配管の保温は分歧から2mの範囲とする。 トラップ形式はフロートボール式(床置型) ※ F.R.P製保溫型 ● F.R.P製 ● SUS製 材質及び厚さ ● SS400(※ 3.2mm ● 4.5mm) ● SUS(※ 1.5mm ● 2.0mm) 煙煤濃度計 ● 取付ける ● 取付けない ● 取付座を付ける 煤じん量測定口(80φ×2) ※ 取付ける ● 取付けない 油面計はゲージ式(側圧計)とする。 据付け方法 ● 標準図(施工3.2)(二重タンク・タンク室無し) ● 標準図(施工3.3)(タンク室有り) タンクの保護被覆 ※ 強化プラスチック ● エポキシ樹脂 ● アスファルト 基礎杭 ※ 不要 ● 要(※ 別途工事 ● 本工事) 土留め工事 ● 要 ● 不要 タンクリーリー用アース端子を設ける。 油面計用機器の機能 ● 給油ポンプの起動停止 ● 溢油警報 ● 減油警報 ● ● 機器表記による。 ● 空気調和機のフィルターは、ロールの場合1本、ユニットの場合1セットを付属品として納入する。 インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。 標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。	1 衛生器具の参考型番 2 小便器用節水装置 3 自動水栓 4 大便器洗浄弁 5 温水洗浄便座 6 器具と排水管接続	1 量水器 2 配管材料	1 量水器 2 配管材料	1 配管材料 2 弁類	1 配管材料 2 弁類	1 配管材料 2 弁類	1 都市ガス設備 2 配管材料					
	24 防振装置	25 地下オイルタンク	26 油面制御装置	27 フィルター等付属品	28 パッケージ空調機の能力表示	29 防振吊り及び支持金物	30 ダクト	31 排煙口	32 排煙設備	33 自動制御設備	34 消火設備	35 ガス設備	36 処理槽設備		
	37 グリーン購入	38 鳥取県公共工事環境配慮指針	39 建築物省エネ法	40 耐震施工	41 機器の固定	42 設計用標準水平震度	43 設計用標準水平震度	44 設計用標準水平震度	45 設計用標準水平震度	46 設計用標準水平震度	47 設計用標準水平震度	48 設計用標準水平震度	49 設計用標準水平震度		
	50 設計用標準水平震度	51 設計用標準水平震度	52 設計用標準水平震度	53 設計用標準水平震度	54 設計用標準水平震度	55 設計用標準水平震度	56 設計用標準水平震度	57 設計用標準水平震度	58 設計用標準水平震度	59 設計用標準水平震度	60 設計用標準水平震度	61 設計用標準水平震度	62 設計用標準水平震度		
	63 設計用標準水平震度	64 設計用標準水平震度	65 設計用標準水平震度	66 設計用標準水平震度	67 設計用標準水平震度	68 設計用標準水平震度	69 設計用標準水平震度	70 設計用標準水平震度	71 設計用標準水平震度	72 設計用標準水平震度	73 設計用標準水平震度	74 設計用標準水平震度	75 設計用標準水平震度		
	76 設計用標準水平震度	77 設計用標準水平震度	78 設計用標準水平震度	79 設計用標準水平震度	80 設計用標準水平震度	81 設計用標準水平震度	82 設計用標準水平震度	83 設計用標準水平震度	84 設計用標準水平震度	85 設計用標準水平震度	86 設計用標準水平震度	87 設計用標準水平震度	88 設計用標準水平震度		
	89 設計用標準水平震度	90 設計用標準水平震度	91 設計用標準水平震度	92 設計用標準水平震度	93 設計用標準水平震度	94 設計用標準水平震度	95 設計用標準水平震度	96 設計用標準水平震度	97 設計用標準水平震度	98 設計用標準水平震度	99 設計用標準水平震度	100 設計用標準水平震度	101 設計用標準水平震度		
	102 設計用標準水平震度	103 設計用標準水平震度	104 設計用標準水平震度	105 設計用標準水平震度	106 設計用標準水平震度	107 設計用標準水平震度	108 設計用標準水平震度	109 設計用標準水平震度	110 設計用標準水平震度	111 設計用標準水平震度	112 設計用標準水平震度	113 設計用標準水平震度	114 設計用標準水平震度		
	115 設計用標準水平震度	116 設計用標準水平震度	117 設計用標準水平震度	118 設計用標準水平震度	119 設計用標準水平震度	120 設計用標準水平震度	121 設計用標準水平震度	122 設計用標準水平震度	123 設計用標準水平震度	124 設計用標準水平震度	125 設計用標準水平震度	126 設計用標準水平震度	127 設計用標準水平震度		
	128 設計用標準水平震度	129 設計用標準水平震度	130 設計用標準水平震度	131 設計用標準水平震度	132 設計用標準水平震度	133 設計用標準水平震度	134 設計用標準水平震度	135 設計用標準水平震度	136 設計用標準水平震度	137 設計用標準水平震度	138 設計用標準水平震度	139 設計用標準水平震度	140 設計用標準水平震度		
	141 設計用標準水平震度	142 設計用標準水平震度	143 設計用標準水平震度	144 設計用標準水平震度	145 設計用標準水平震度	146 設計用標準水平震度	147 設計用標準水平震度	148 設計用標準水平震度	149 設計用標準水平震度	150 設計用標準水平震度	151 設計用標準水平震度	152 設計用標準水平震度	153 設計用標準水平震度		
	154 設計用標準水平震度	155 設計用標準水平震度	156 設計用標準水平震度	157 設計用標準水平震度	158 設計用標準水平震度	159 設計用標準水平震度	160 設計用標準水平震度	161 設計用標準水平震度	162 設計用標準水平震度	163 設計用標準水平震度	164 設計用標準水平震度	165 設計用標準水平震度	166 設計用標準水平震度		
	167 設計用標準水平震度	168 設計用標準水平震度	169 設計用標準水平震度	170 設計用標準水平震度	171 設計用標準水平震度	172 設計用標準水平震度	173 設計用標準水平震度	174 設計用標準水平震度	175 設計用標準水平震度	176 設計用標準水平震度	177 設計用標準水平震度	178 設計用標準水平震度	179 設計用標準水平震度		
	180 設計用標準水平震度	181 設計用標準水平震度	182 設計用標準水平震度	183 設計用標準水平震度	184 設計用標準水平震度	185 設計用標準水平震度	186 設計用標準水平震度	187 設計用標準水平震度	188 設計用標準水平震度	189 設計用標準水平震度	190 設計用標準水平震度	191 設計用標準水平震度	192 設計用標準水平震度		
	193 設計用標準水平震度	194 設計用標準水平震度	195 設計用標準水平震度	196 設計用標準水平震度	197 設計用標準水平震度	198 設計用標準水平震度	199 設計用標準水平震度	200 設計用標準水平震度	201 設計用標準水平震度	202 設計用標準水平震度	203 設計用標準水平震度	204 設計用標準水平震度	205 設計用標準水平震度		
	206 設計用標準水平震度	207 設計用標準水平震度	208 設計用標準水平震度	209 設計用標準水平震度	210 設計用標準水平震度	211 設計用標準水平震度	212 設計用標準水平震度	213 設計用標準水平震度	214 設計用標準水平震度	215 設計用標準水平震度	216 設計用標準水平震度	217 設計用標準水平震度	218 設計用標準水平震度		
	219 設計用標準水平震度	220 設計用標準水平震度	221 設計用標準水平震度	222 設計用標準水平震度	223 設計用標準水平震度	224 設計用標準水平震度	225 設計用標準水平震度	226 設計用標準水平震度	227 設計用標準水平震度	228 設計用標準水平震度	229 設計用標準水平震度	230 設計用標準水平震度	231 設計用標準水平震度		
	232 設計用標準水平震度	233 設計用標準水平震度	234 設計用標準水平震度	235 設計用標準水平震度	236 設計用標準水平震度	237 設計用標準水平震度	238 設計用標準水平震度	239 設計用標準水平震度	240 設計用標準水平震度	241 設計用標準水平震度	242 設計用標準水平震度	243 設計用標準水平震度	244 設計用標準水平震度		
	245 設計用標準水平震度	246 設計用標準水平震度	247 設計用標準水平震度	248 設計用標準水平震度	249 設計用標準水平震度	250 設計用標準水平震度	251 設計用標準水平震度	252 設計用標準水平震度	253 設計用標準水平震度	254 設計用標準水平震度	255 設計用標準水平震度	256 設計用標準水平震度	257 設計用標準水平震度		
	258 設計用標準水平震度	259 設計用標準水平震度	260 設計用標準水平震度	261 設計用標準水平震度	262 設計用標準水平震度	263 設計用標準水平震度	264 設計用標準水平震度	265 設計用標準水平震度	266 設計用標準水平震度	267 設計用標準水平震度	268 設計用標準水平震度	269 設計用標準水平震度	270 設計用標準水平震度		
	271 設計用標準水平震度	272 設計用標準水平震度	273 設計用標準水平震度	274 設計用標準水平震度	275 設計用標準水平震度	276 設計用標準水平震度	277 設計用標準水平震度	278 設計用標準水平震度	279 設計用標準水平震度	280 設計用標準水平震度	281 設				



付近見取図

- ・合併処理浄化槽方式から下水道方式へ切り替え
- ・下水道切り替え後、浄化槽撤去
- ・浄化槽廃止に伴う汲み取り、清掃は別途工事

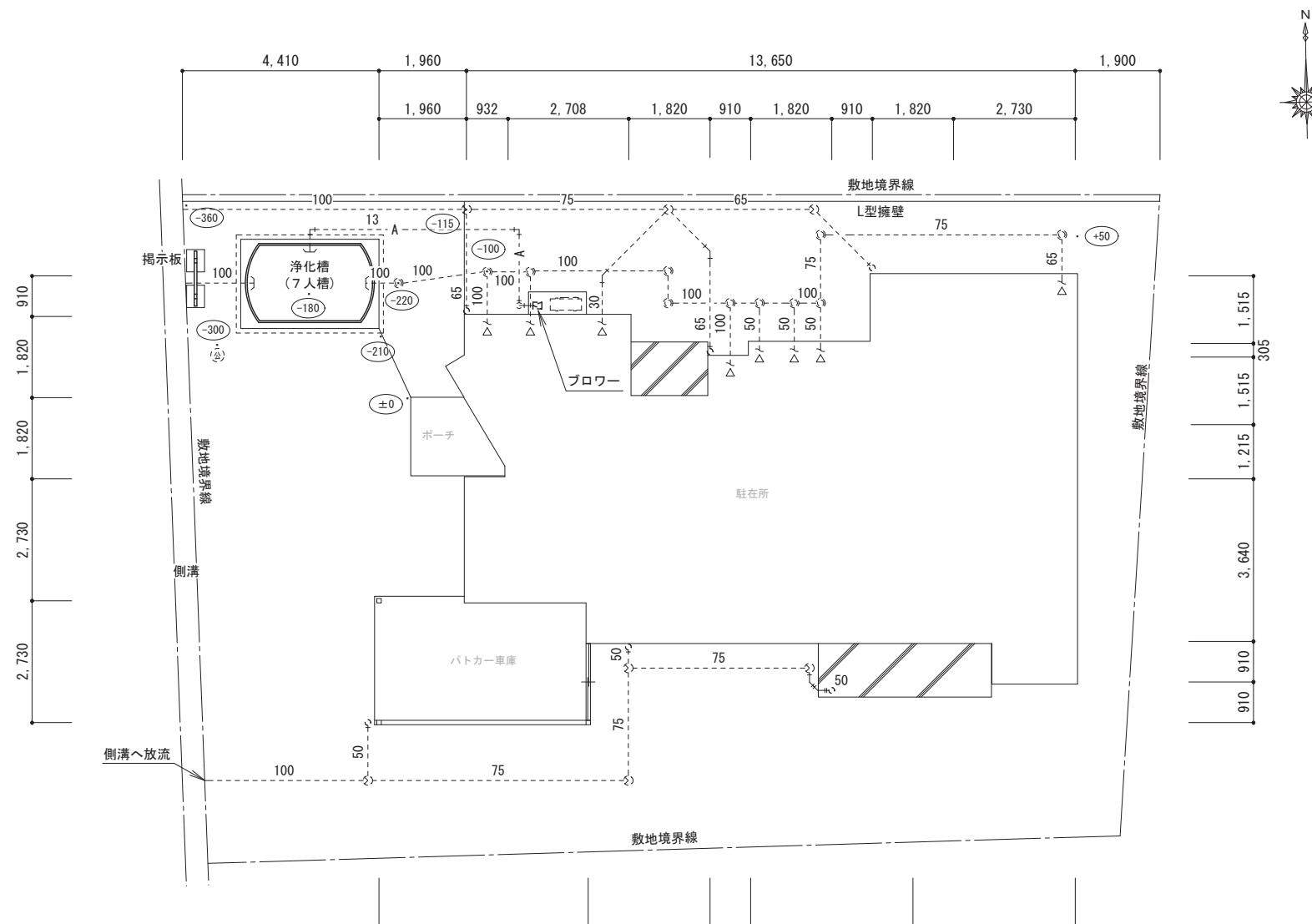
- ・合併処理浄化槽方式から下水道方式へ切り替え
 - ・下水道切り替え後、浄化槽撤去
 - ・浄化槽廃止に伴う汲み取り、清掃は別途工事

概略工事工程表

The Gantt chart illustrates the timeline for the Mechanical Equipment Work. The tasks are as follows:

- Month 1:** Preparation Period (準備期間), Adjustment (調整: Document preparation, Sewerage application), AS Disassembly (AS解体).
- Month 2:** Pipeline Laying (配管敷設), Pipeline Replacement (切替), Sewerage Inspection (下水道検査), Sludge Pit Removal (浄化槽撤去).
- Month 3:** AS Relocation (AS復旧).
- Month 4:** Inspection Preparation (検査準備), Completion Inspection (完成検査).

*上表を参考として実施工工程表を施設・監督員と協議の上作成すること



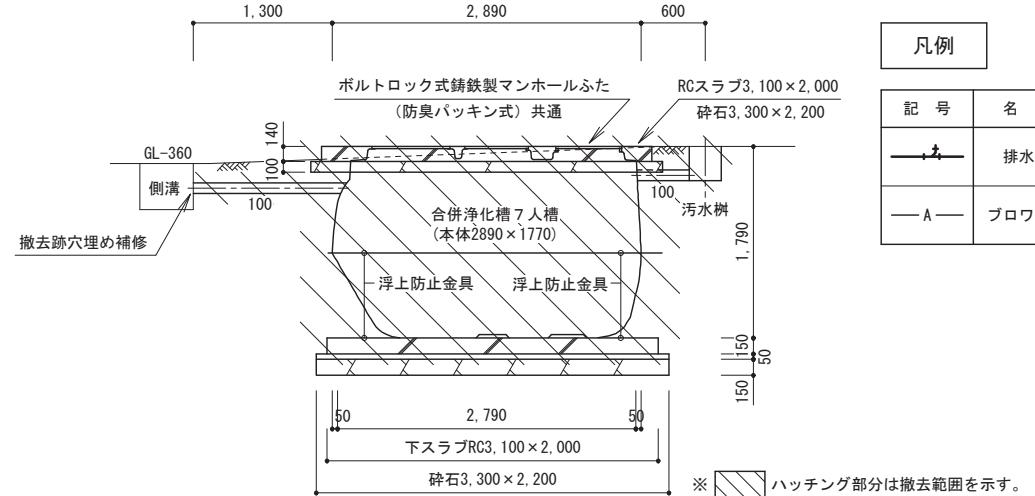
屋外配置図(既設) S=1/100



各樹寸法表

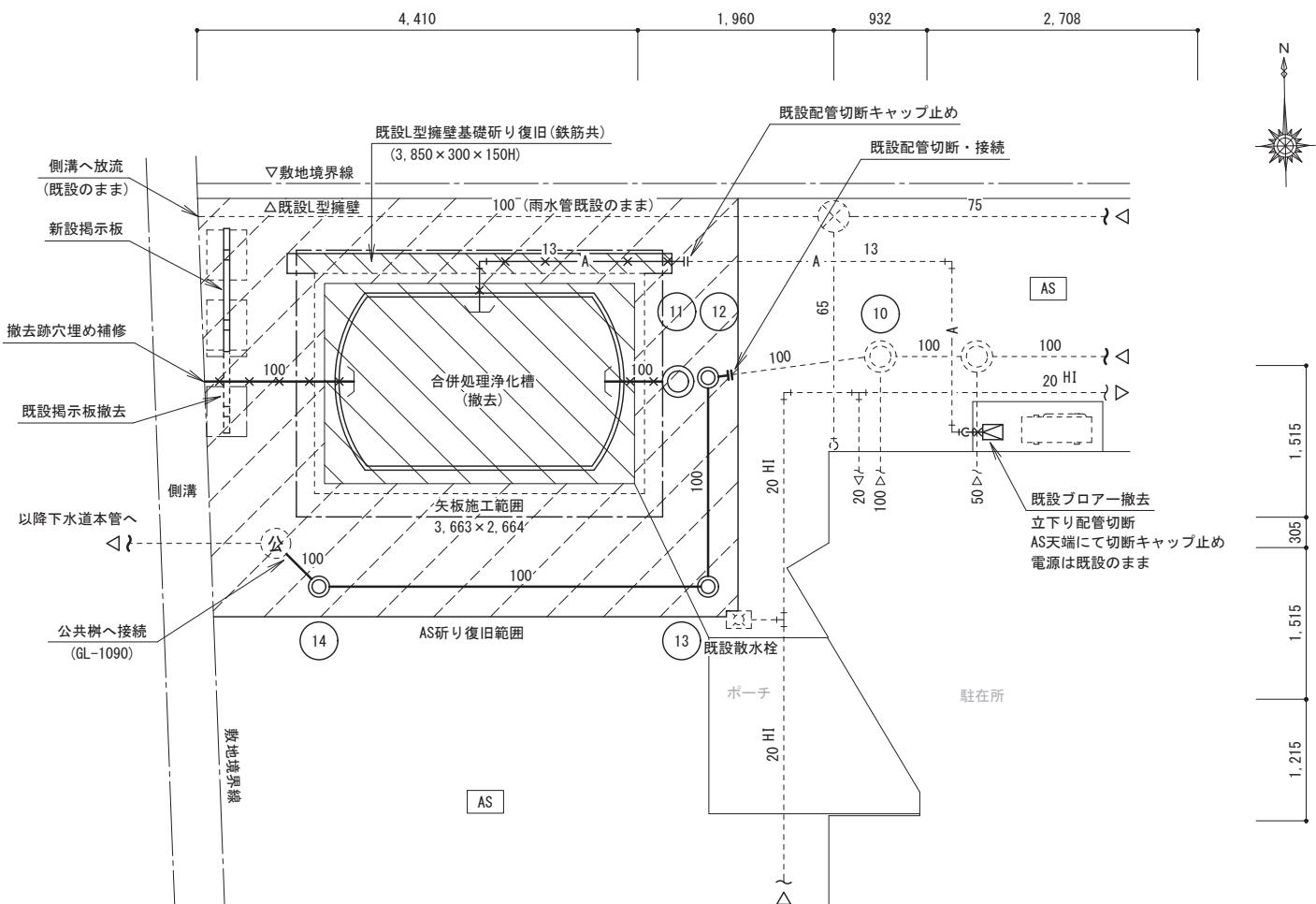
記号	名称	樹仕様	流入管底深さ (設計GL基準)	流出管底深さ (設計GL基準)	地盤高さ (設計GL基準)	樹深さ (地盤高基準)	蓋仕様	数量	備考
10	小口径污水樹	100-300φ 90Yタイプ(既設)	370	380	-100	280	レジコン蓋300φ	1	
11	"	100-300φ STタイプ(撤去)	460	470	-220	250	"	1	
12	"	100-200φ 90Lタイプ(新設)	450	460	-220	240	防護蓋(T-8)200φ(内蓋共)	1	
13	"	100-200φ 90Lタイプ(新設)	500	510	-60	450	"	1	
14	"	100-200φ 45Lタイプ(新設)	590	600	-270	330	"	1	
公共樹	"	100-200φ DRタイプ(既設)	610	1,390	-300	1,090	"	1	

- 新設汚水管の勾配は2.0%を基準とする。
- 樹深さ及び地盤高さは参考値とし、現地調査をして確認すること。

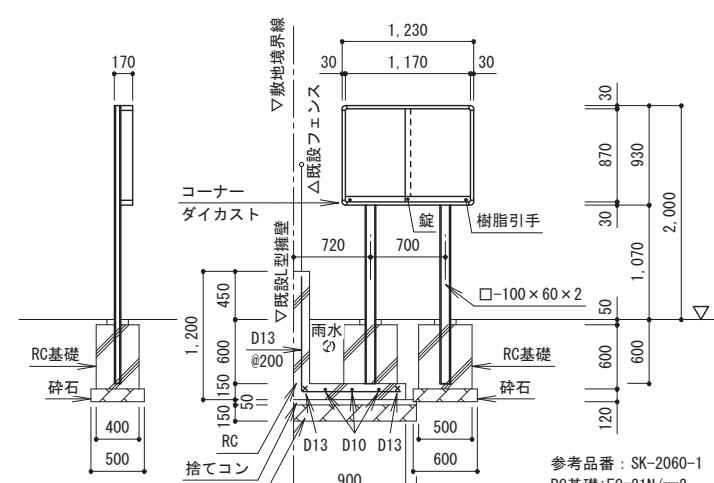


記号	名称	管種
	排水管	VP (JIS-K6741)
— A —	ブロワー管	VP (JIS-K6741)

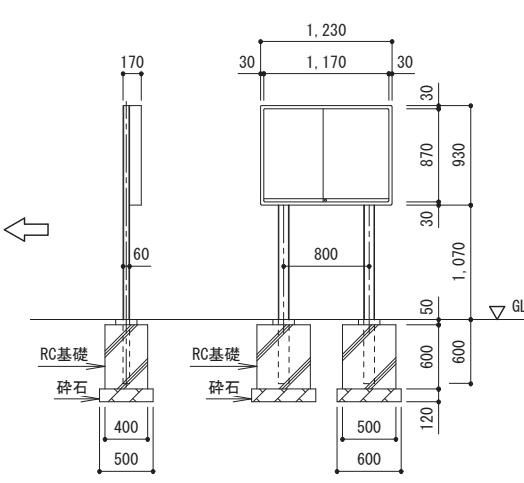
浄化槽(撤去)断面参考図 S=1/50



屋外平面図(改修後) S=1/50



新設掲示板・既設L型擁壁参考図 S=1/50



既設掲示板(撤去)参考図 S=1/50

特記

1. ----- 細破線は既設配管(残置)を示す。
 2. -×-× 太破線は撤去配管を示す。
 3. ——— 太線は新設配管を示す。
 4. ---||--- は既設配管切断・接続又は切断・キャップ止め部分を示す。
 5. はRC研り撤去、アスファルト復旧範囲を示す。
 6. はアスファルト研り復旧範囲を示す。

7. アスファルト仕様はA-5-10(想定)とする。

8. 工事期間中交通誘導員を配置すること。

9. 矢板設置工事(バックホウ押込み方式)(想定)

軽量アルミ矢板33型(打込2.0m)

水替え(水中ポンプ)含む



令和6年度

むきばんだ史跡公園調査研究棟ロビーエアコン更新工事

図 番	図 名	縮 尺
M-01	表紙、図面リスト	—
M-02	特記仕様書、附近見取図、配置図	1/1000
M-03	調査研究棟 1階平面図	1/30, 1/200
M-04	冷暖房設備 平面図	1/100
M-05	動力設備 平面図	1/100

鳥取県

令和6年度

西部環境建築局

工 事 名	むきばんだ史跡公園調査研究棟ロビーエアコン更新工事	SCALE	DATE	鳥取県西部総合事務所環境建築局建築住宅課	課 長	課 長 棚 佐	係 長	合 議	担 当	年 度	図面NO.
図 名	表紙、図面リスト	—	R6.07							R6	M-01

特記仕様書

1 一般事項

- (1) 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて以下の国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等による。
 - ・「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下「標準仕様書」という。）
 - ・「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）
 - ・「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和4年版）」（以下「標準図」という。）
- (2) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針（令和4年版）」（以下「監理指針」という。）を適用する。
- (3) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書、改修標準仕様書、標準図及び監理指針を適用する。

2 特記事項

(1) 官公署その他への手続

工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。

(2) 機材等

本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。

(3) 機材の品質・性能証明

JIS等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(3)の品質及び性能を有することの性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。

(4) 電気容量及び機器表示

原則として、機器類の能力、容量等は表示された値以上とし、電動機出力、燃料消費量等は表示された値以下とする。

(5) 施工図等

提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。

(6) 完成写真等

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック 機械設備工事編 令和5年版」による。

完成写真（カラー判）2部を完成時に提出すること。

(7) 完成図等

次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。

- ・完成図、施工図（CADデータ、PDFデータ）1部
- ・完成図2つ折り（A3判、A4判）各2部
- ・完成図書（A4版市販ファイル）：完成写真、完成図、施工図（A4折り）、主要機器図、試験成績書 2部
- ・保守用説明書（A4版市販ファイル）：保守に関する指導案内書、機器取扱説明書、主要機器一覧表 2部
- ・保証書 1部
- ・官公署届出書類 1部

(8) 技能士の適用

冷凍空気調和機器施工2級

(9) 電気保安技術者

適用しない

(10) 工事用水・電力・その他

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。

(11) 表示板

設ける。（寸法等は下図による。）

(12) 補修など

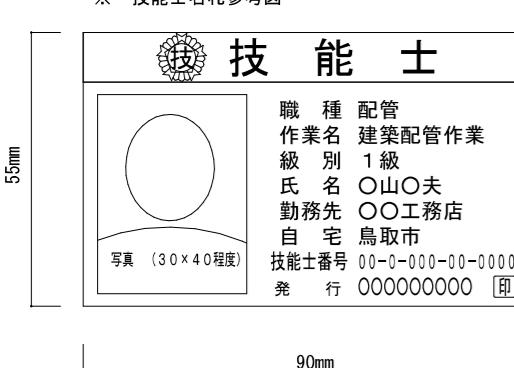
工事の施工に伴い既存部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならない補修する。

(13) 火災保険等

工事目的物及び工事材料等工事施工途中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。

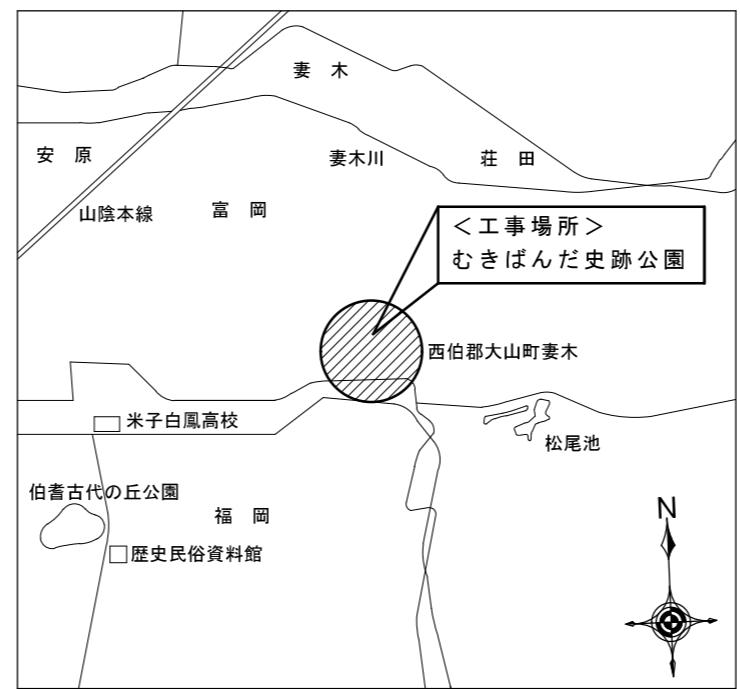
（保険の加入期限は、工事完成引渡しまで【概ね工期+21日】とする。）

※ 技能士名札参考図



主要事項（職種、作業名、級別、氏名、住所地、技能士番号、発行元、本人写真）が記載であればレイアウトは問わない。

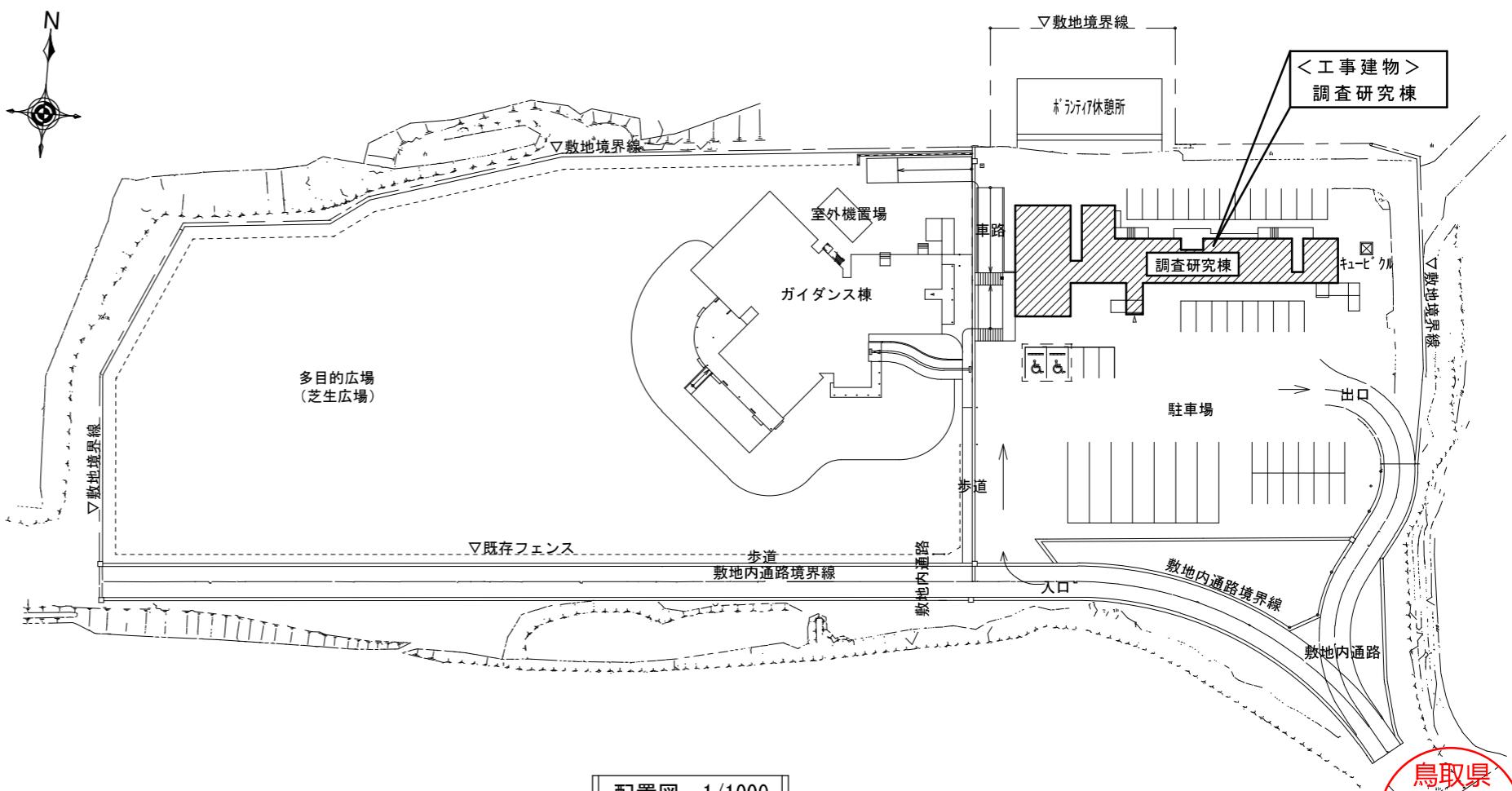
工事名	むきばんだ史跡公園調査研究棟ロビーエアコン更新工事	SCALE	DATE	鳥取県西部総合事務所環境建築局建築住宅課	課長	課長補佐	係長	合議	担当	年度	図面NO.
図名	特記仕様書、附近見取図、配置図	1/1000	R6.07						R6	M-02	

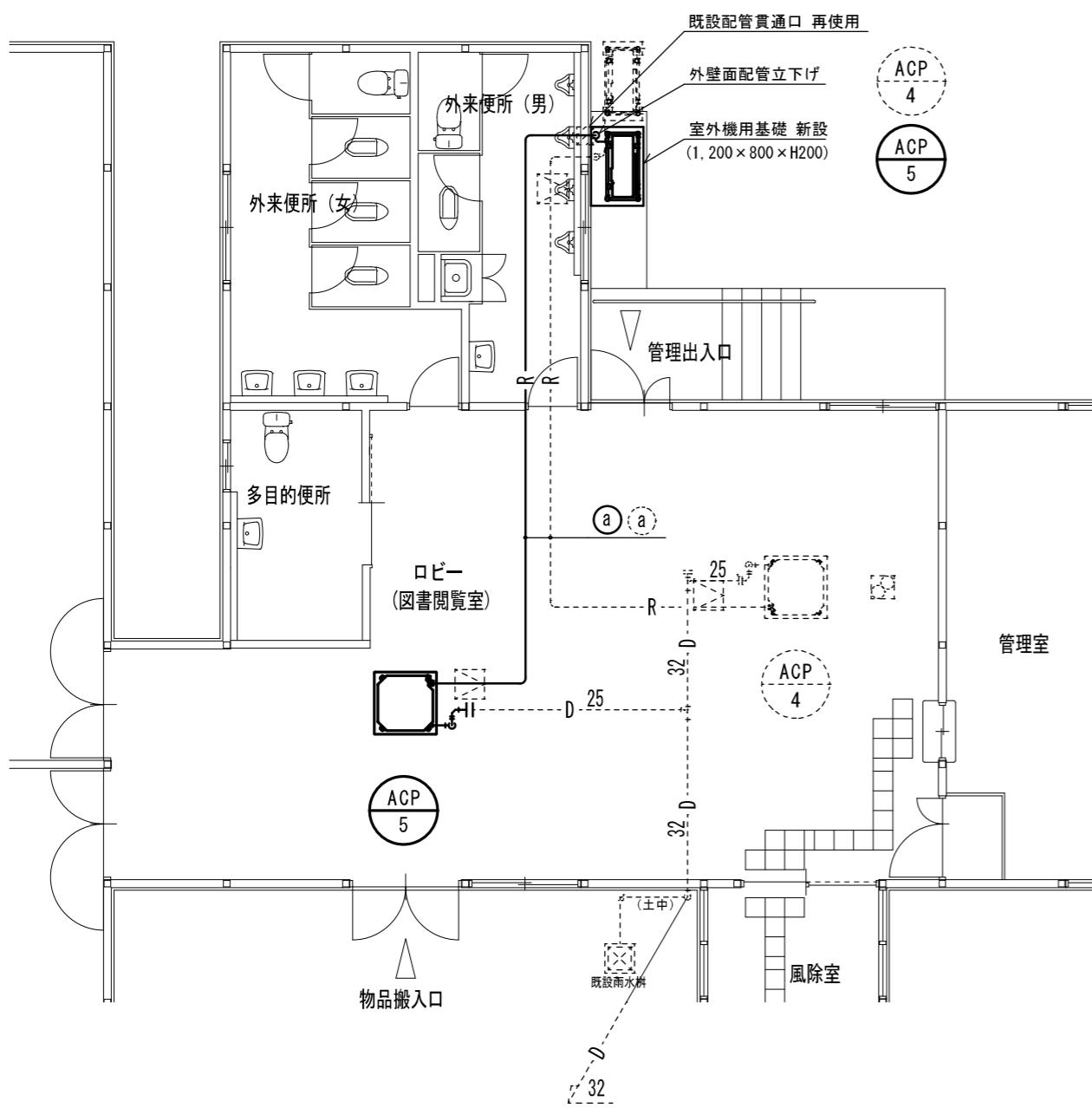


【工事概要】

- ・調査研究棟1階ロビーのパッケージエアコンの更新 1組

附近見取図





冷暖房設備 平面図 (改修後) 1/100

記号	冷媒管サイズ 指定内は保温厚
(a)	液/ガス: $\phi 9.52(10t)/\phi 15.88(20t)$

凡例

記号	名称	仕様等
—R—	冷媒管	冷媒用断熱被覆銅管 (JGDA 0009)
—D—	ドレン管	硬質塩化ビニル管 (VP) (JIS K 6741)
— —	既設配管接続箇所	
□	天井点検口	天井点検口 (450×450)

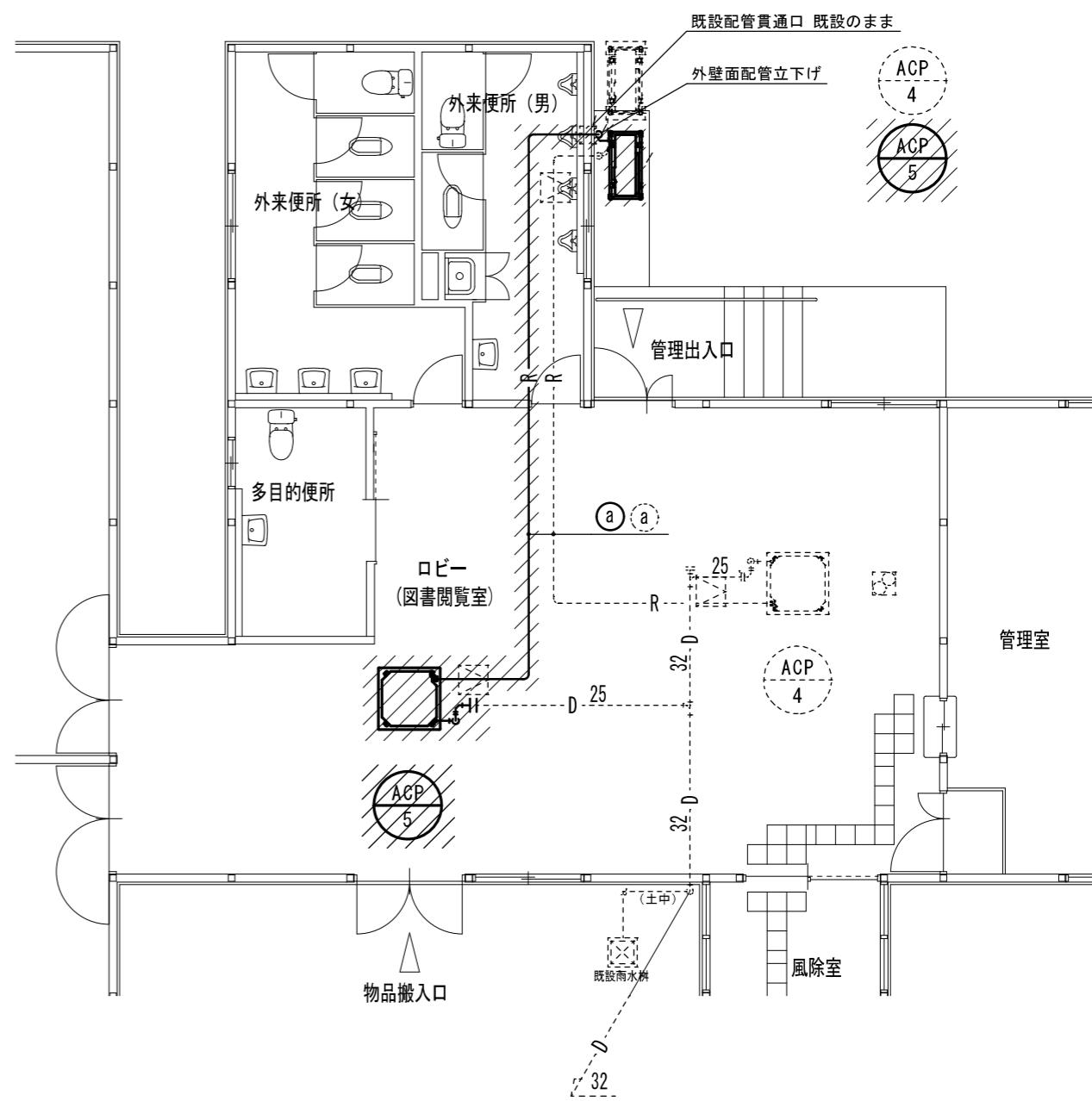
特記

- 実線 (太線) は新設を示し、破線は既設を示す。
- 指示なき配管・配線は天井内を示す。
- 屋外新設冷媒管は樹脂製保温化粧かべ-(100mm)内に納めること。
- ドレン管の新設部分の保温仕様は保温むら10tとする。
- 室外機新設基礎の詳細についてはM-03図を参照のこと。
- 室外機固定用の基礎ボルトの仕様については採用機種における耐震計算書を作成し、監督員の確認を受けた上で仕様決定、施工すること。

機器表 (新設)

記号	名称	仕様	数量	内外連絡配線	備考
ACP 5	パッケージエアコン	4方向天井かセット型 耐塩害仕様 [省エネ性能上位機種] 冷房/暖房能力:10.0(2.5~11.2)kW/11.2(2.8~14.0)kW [P112型] 電源:3φ 200V 圧縮機:1.95kW(参考) ワイヤレスリモコンタイプ、ドレンアップ、他付属品一式 防振平架台300H (溶融亜鉛めっき)	1	EM-EEF 2.0mm-3C E1.6 (冷媒管共巻き)	空調対象室: ロビー

鳥取県
令和6年度
西部環境建築局



冷暖房設備 平面図 (撤去) 1/100

記号	冷媒管サイズ 指定内は保温厚
(a)	液/ガス: $\phi 9.52(8t)/\phi 19.05(20t)$

凡例

記号	名称	仕様等
—R—	冷媒管	冷媒用断熱被覆銅管
—D—	ドレン管	硬質塩化ビニル管 (VP)
— —	既設配管接続箇所	
□	天井点検口	天井点検口 (450×450)

特記

- 実線 (太線) ハッチがけは撤去を示し、破線は既設のままを示す。
- 指示なき配管・配線は天井内を示す。
- 屋外冷媒管は樹脂製保温化粧かべ-(77mm)も合わせて撤去とする。
- ドレン管の撤去部分の保温仕様は保温むら10tを見込んでいる。
- 冷媒管、配線類の撤去、新設は既設の天井点検口及び天井化粧石膏ボード(シラフ)ト 900×450) 5枚程度を取り外し再取付して作業する想定としている。

機器表 (撤去)

記号	名称	仕様	数量	内外連絡配線	備考
ACP 5	パッケージエアコン	4方向天井かセット型 冷房/暖房能力:10.0(2.5~11.2)kW/11.2(2.8~14.0)kW [P112型] 電源:3φ 200V 圧縮機:1.9kW 冷媒: R22 4.1kg ワイヤレスリモコンタイプ、ドレンアップ、他付属品一式 防振平架台500H (溶融亜鉛めっき)	1	VVF 2.0mm-3C E1.6 (冷媒管共巻き)	空調対象室: ロビー 室外機重量: 101kg 型式: SZYCJ112C(タイプ)

工事名	図名	SCALE	DATE	鳥取県西部総合事務所環境建築局建築住宅課	課長	課長補佐	係長	合議	担当	年度	図面NO.
むきばんだ史跡公園調査研究棟ロビーエアコン更新工事	冷暖房設備 平面図	1/100	R06.07							R6	M-04



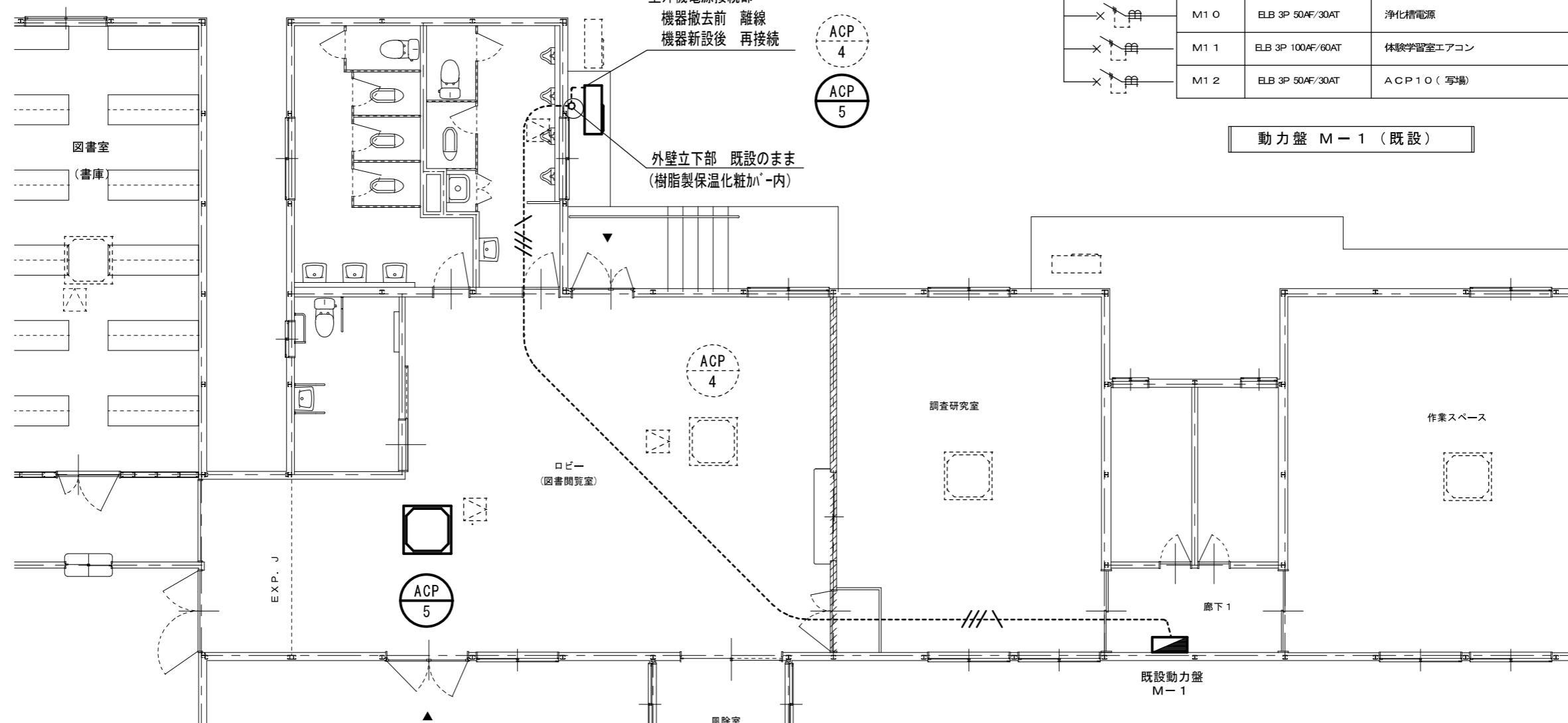
| 凡例 |

図中特記なき配管配線は下記による

CV5.5sq-4C 既設再使用

特記

- 既設の配線経路、回路等の確認を十分に行った上で施工を行うこと。
 - 指示なき配線は天井内コロガシを示す。
 - 電源ケーブルは再使用前に絶縁測定を行い、状態が悪い場合は監督員に報告すること。



回路番号	遮断器種別	負荷名称(参考)
M1	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 1 (遺物収蔵庫)
M2	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 2 (所長室)
M3	ELB 3P 50AF/20AT	A C P 3 (調査研究室)
M4	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 4 (図書閲覧室 1)
M5	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 5 (図書閲覧室 2)
M6	ELB 3P 50AF/20AT	A C P 7 (遺物整理作業室 1)
M7	ELB 3P 50AF/20AT	A C P 6 (遺物整理作業室 2)
M8	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 8 (図書室 (書庫))
M9	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 9 (企画展示室)
M1 0	ELB 3P 50AF/30AT	净化槽電源
M1 1	ELB 3P 100AF/60AT	体験学習室エアコン
M1 2	ELB 3P 50AF/30AT	A C P 1 O (写場)

動力盤 M-1 (既設)

(既設再使用)

動力設備 平面図（改修後） 1/100



鳥取県環境保全課										
工事名	むきばんだ史跡公園調査研究棟ロビーエアコン更新工事	SCALE	DATE	課長	課長補佐	係長	合議	担当	年度	図面NO.
図名	動力設備 平面図	1/100	R06.07	鳥取県西部総合事務所環境建築局建築住宅課					R6	M-05